

## エゾリス

エゾリスは大変な早起きで、とくに冬の間は日の出前に一時間ばかり巢からでてきてエサをあさる。日の出前のエサあさりでは、木の上のマツカサにはいつている実や、幹に残っている乾燥したキノコを食べ、地上では雪に穴を掘つてドングリなどを拾ひだす。シマリスの場合は、地下で冬ごもりをしていて、生活もほとんどが地上だから、一年中木の上に住んでいるエゾリスとは、同じリス仲間でも習性はかなり違っている。

北海道の山も五月にはいると、ふもとの雪はほとんど消える、エゾリス夫婦らが、そろそろ繁殖をはじめるのはこのころだ、新しい巢はエゾマツやトドマツなどの針葉樹林だつたら、木の高さの中間より少し上で、枝のつけ根に作られる。広葉樹だと、キツツキの古巢や、ウロの中に作ることが多い。この中で成長した子どもは、やがて木から木への一生を送るため親から訓練をうける、フサフサした尾を、とぶときにいつぱいふくらませて、ほとんど一直線に隣りの木へ飛行する、エゾモモンガの滑降が曲線をえがくのと対照的だ。エゾリスは本州のリスに比べると毛皮がずつと良質で体格も大きい、冬毛は灰色、夏毛は暗赤色で尾の毛は特殊な刷毛や筆に使われる。

山梨県清春村に棲息しているシロリスは天然記念物として保護されている。